

WAKO no.03

特集

現代社会学科10年 卒・業・生・は・い・ま

現代社会学科が発足したのは2007年。

満10年が経ちました！

多くの卒業生が、いま、社会で活躍しています。

社会のしくみを学んだことは、

いまにどのように活かされているでしょうか。

あなたも、大学生活を通じて大きく成長できるよう、

一步踏み出してみませんか。

特集 現代社会学科10年—卒業生はいま：卒業生からのメッセージ 2
さまざまな「現場」での体験から学習する

サンフランシスコ・ベイエリアでのフィールドワーク 4

北海道浦河町でのフィールドワーク 5

ハワイでのフィールドワーク 6

北海道夕張市でのフィールドワーク 7

社会の「いま」をデータで読み解く—「社会調査士」を目指そう！ 8

卒・業・生・は・い・ま

遠田雄三

2010年度卒業(1期生)・市役所職員・生活保護のケースワーカーとして勤務。



10周年、おめでとうございます。卒業してはや7年、現在は市役所で生活保護のケースワーカーをしています。暮らしに困った人を相手にする仕事ですが、様々なバックグラウンドを持った人たちが来ます。学生時代に学んだ貧困問題、雇用問題、家族問題等々が、業務の中で向き合わねばならない課題として日々現れます。今になって、時間もあったんだし、もっと勉強しときやよかったなあ、と思います。後悔先に立たず。これからも日々勉強です。

鏡 龍太郎

2010年度卒業(1期生)・障害者支援施設で生活支援員として勤務。

現代社会学科での思い出としてまず浮かぶのはゼミで過ごした日々です。僕は当時ご在職だった西研先生の下で哲学を学びました。西ゼミはとにかく雰囲気のいいゼミで、僕にとってすごく

気持ちのいい、居心地のいい場所でした。西先生やゼミ生のみんなと真剣に、時には楽しく笑いあいながら言葉を突き合わせ「哲学」した日々は社会人となつた今でも貴重な財産となっています。

現在は神奈川県の茅ヶ崎市で障害のある方の生活支援員をしています。今は自閉症の方の支援について学んでいます。社会人になっても勉強しなくてはいけないことはたくさんありますが、僕に学ぶことの楽しさを教えてくれたのは大学生活だったなあと思っています。



瀧 大知

2010年度卒業(1期生)・和光大学特別研修員

卒業後は、和光大学大学院に進学。現在は和光大学特別研修員として、主に日本におけるヘイト・スピーチの問題について研究を続けています。

現代社会学科では、「社会」には自分以外の「他者」がいるという大事なことを教わりました。それは今、自分の思考の核となっています。様々なマイノリティや社会的弱者、セクシュアリティの問



題etc. いつの間にか「他者」への想像力を失いつつある時代の中で、現代社会学科での学びは、自分にとってそうだったように、これからこの学科で学ぶ人たちにとって貴重な経験となること思います。次の15周年、20周年の節目に向けて現代社会学科が続していくことを楽しみにしています。

田井幸祐

2012年度卒業・高等学校教員

私は、星槎国際高等学校で教員をしています。星槎には、「人を認める」「人



を排除しない」「仲間をつくる」という3つの約束があります。3つの約束を通じた、生徒たちとの関わり合いの中でこの仕事の楽しさを感じています。

現代社会学科の思い出は、様々な人たちと関わったことです。2つのゼミに所属し、ゼミ長を経験することも出来ました。ゼミ合宿などでは、みんなで語り合ったことをよく覚えています。こうした経験から、自分の視野を広げることが出来ました。

こうした大学での経験を活かして、生徒と共に学び続ける教員でありたいと思っています。

北澤(別府) 夏季

2012年度卒業・卒業後の2013年、沖縄に移住。障害児のデイサービスで指導員として勤務。



現代社会学科を選んだのは、貧困や紛争の問題について理解を深めたかったからです。ゼミでは同様の問題意識を共有した仲間と交流でき、授業外でも友人たちとの有益なディベートの場がも

てました。ゼミ合宿で、日常の些細な出来事から大きな社会問題まで、仲間たちと遅くまで語り合ったのはいい思い出です。いま職場で自分の意見をしっかりと伝えることが出来ているのは、こうした経験のおかげです。

障害を持った子供たちの支援という仕事に就くことにしたのも、大学で車椅子サポートやノートテイクを経験したことで福祉に興味を持ち、東日本大震災の被災地支援のボランティア活動を先生方にも相談しながら行った経験があったからです。

古俣和季

2013年度卒業・社会福祉法人紅梅学園に就職。2年目。

大学での学びの中から、児童に関する相談職に就きたいと思い、卒業後は福祉の専門学校に通いました。

専門学校に通っていた時に、障がい者入所施設で実習を行う機会があり、障がいを持った方と直接関わりながら支援することの難しさや楽しさを感じ、障がい者入所施設で働きたいと思うよう



になりました。その気持ちを生かして仕事をさがし、現在は、厚木にある障がい者入所施設で支援員として働いています。関心のある分野で働くことができ、毎日が楽しいです。

森下幸季

2015年度卒業・中学校で非常勤講師(社会)とスクールライフセンターとして勤務。



現在私は、中学校の社会の教員を目指し勉強しながら、埼玉県内の中学校で非常勤講師とスクールライフセンターをしています。生徒に授業をする楽しさや難しさを感じるなかで、さらに教員になりたいという想いが強くなりました。

現代社会学科では、様々な分野を勉強することができたので、自分の視野が広がりました。学校では、常に様々な問題が起こります。今までの私なら何も出来なかったかもしれません、現代社会学科で学んだことにより、様々な視点から問題を見て、解決策を考えられるようになったと感じています。

さまざまな「現場」での体験から学習する

現代社会学科のフィールドワーク

サンフランシスコ・ベイエリアでの フィールドワーク

場所：サンフランシスコ、バークレー、オークランド(アメリカ合衆国)

期間：2014年9月2日～9月12日 参加者：21名 担当：杉浦郁子



6色の象徴：カストロ地区



GLBT History Museum : カストロ地区



Let's share !!



違う街並み：ヘイトアシュベリー



足跡：カストロ地区ゲイチャーチ前の歩道



フリースピーチ運動の象徴、
ピープルズパーク：バークレー



ハーヴェイミルク小学校の壁画：カストロ地区

北海道浦河町での フィールドワーク

場所：北海道浦河町 期間：2014年8月31日～9月7日
参加者：8名 担当：米田幸弘



べてるの家の活動は、ここから始まった。



べてるの家の「当事者研究」に参加。
「弱さ」と「苦労」をわかちあう。



現地でとても親切にして頂いたべてるメンバーやの方と、べてるの家の前で。

北海道の浦河町という過疎地域を訪ね、地域福祉や地域おこしの先進的な取り組みを調査しました。浦河町は競走馬や日高昆布の産地として知られますが、近年では何といっても、精神障がいを抱えた当事者が共同体的な活動を営む「浦河べてるの家」がおおきな注目を浴びています。現地調査をつうじて、「べてるの家」をはじめとして、農業や漁業、映画館、障がい者のための乗馬療育など、様々な領域で浦河町を盛り立てていこうとする人たちの熱い思いに触れ、この地域の魅力と可能性を知ることができました。

(米田幸弘)



日本では珍しい乗馬療育センターを取材。



イチゴ農家を取材。浦河で栽培されるイチゴはケーキ用で、約8割が銀座コージーコーナーに出荷されている。



浦河町長にインタビュー取材。町長の池田拓(ひらく)氏はなんと和光大学の卒業生。

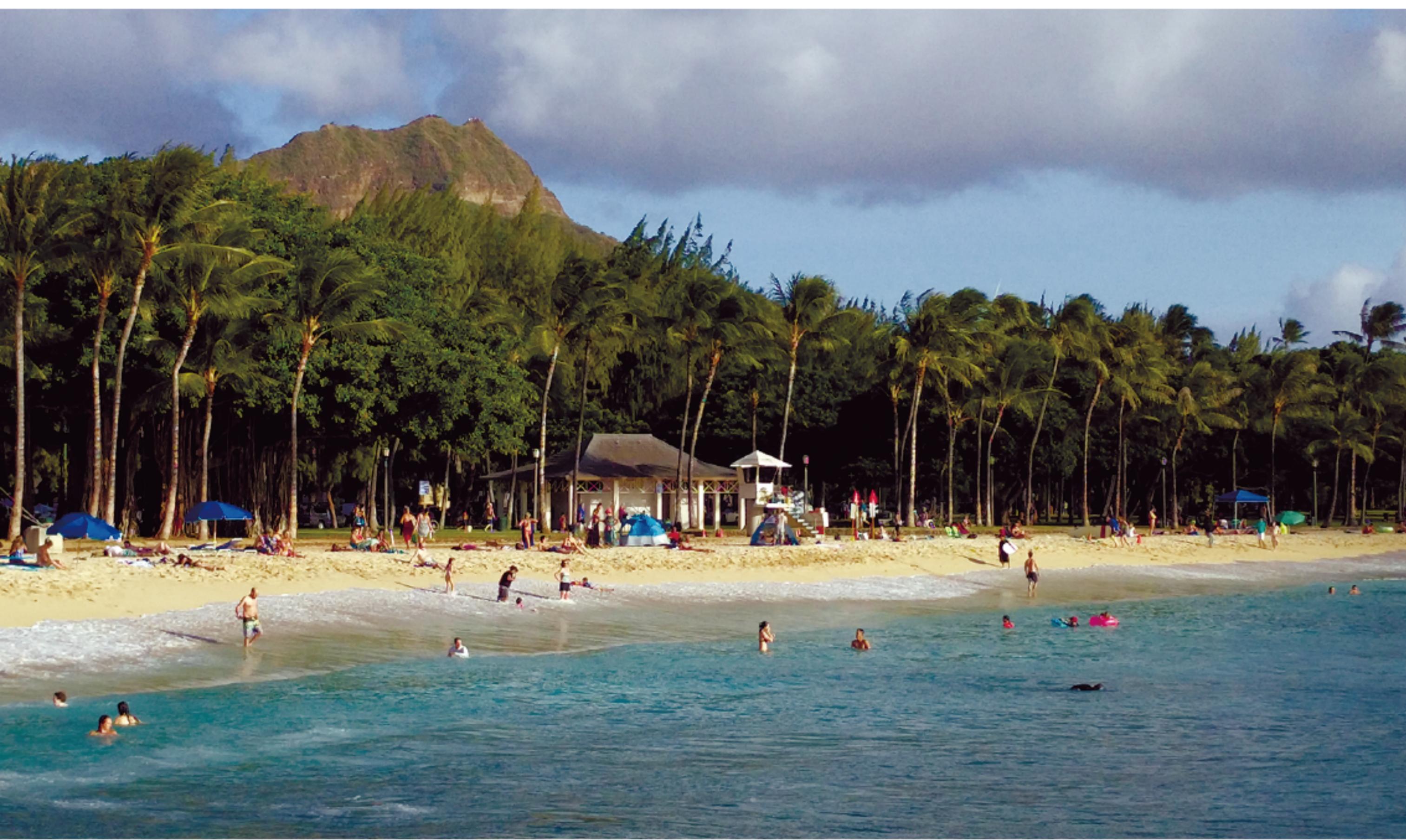


うらかわ駅からの風景

ハワイでのフィールドワーク

場所：ハワイ州オアフ島、カウアイ島（アメリカ合衆国）

期間：2015年9月27日～10月8日 参加者：8名 担当：挽地康彦



ワイキキのビーチとダイヤモンドヘッド



KCCのファーマーズマーケットで英語インタビュー！



カウアイ島にある巨大な植物園にて



「コナネイ」を前にして、古代ハワイアンの文化を学ぶ。



カネオへの養魚池の保全活動に参加する。

「多島海社会/多民族社会ハワイの現在と伝統文化」をテーマに掲げて、ハワイ諸島のカウアイとオアフの2島を訪れました。ハワイの生活の根底には古代の神話やスピリチュアリティに満ちた文化がいまなお息づいています。他方で、観光、環境、エスニシティ、貧困など社会問題の存在も見逃せません。

ハワイの文化と社会問題の解決との間にはどのような親和性があるのか？ハワイでの数々の出逢いを通じて、学生とともに考えてきました。（挽地康彦）



カメハメハ一世の銅像を背に、みんなでリフレクション。

北海道夕張市での フィールドワーク

場所：北海道 夕張市 期間：2016年8月31日～9月7日

参加者：11名 担当：竹信三恵子



特産物ゆうばりメロンを記念したゆうばりメロン城も閉鎖された。



ゆうばりメロン農家でメロンづくりの苦労を聞く。



廃墟となった火力発電所



障害者スポーツ体験施設で車いすを試す参加者たち



廃校を利用した障害者スポーツ体験施設の
前で集合



炭鉱跡を利用して作られた石炭博物館

財政破たん都市として知られる北海道夕張市を訪問しました。夕張は、石炭から石油へというエネルギー政策の転換の中で主力産業の炭鉱が閉鎖され、人口減少に苦しんだ地域です。ここから脱出しようと、観光都市への転換を図りますが、そのために大きな借金を抱え込むことになり、それが財政破綻につながってしまいました。

製造業が海外へ出ていく産業構造の転換、少子高齢化による人口減という、日本社会の近未来図のような場で、学生たちと日本の今後を考えました。

(竹信三恵子)

社会の「いま」をデータで読み解く

「社会調査士」を目指そう！

現代では、膨大な数の社会調査が溢れています。情報の洪水に溺れるごとなくデータを読みとき、自ら判断するとのできる「リサーチ・リテラシー」が私たちに求められています。

社会調査士の勉強を通じて、情報社会を生き抜くための教養である「リサーチ・リテラシー」を身に付けることができます。多くの学生に資格取得にチャレンジしてほしいと思っています。

「社会調査士」は、社会調査の専門的な能力を有することを証明する資格です。所定の授業(6科目14単位)を履修すれば取得できます(一般社団法人・社会調査協会が認定)。

※社会調査とは：政府・自治体の官庁統計、メディアの世論調査、企業のマーケティング調査、その他のアンケート調査や聞き取り調査などを指します。

(米田幸弘)



社会調査士の資格を目指す学生の皆さん。
手にしているのは、社会調査のテキストや報告書。

やって良かった！—社会調査士を目指す学生たちの声

データを手がかりに、物事を論理的に考えられるようになった。
この思考法は、いろんなことに応用できる。

世の中には「多数の人がこう思っている“だろう”」という、常識と思われていることが多くあるが、社会調査では、“だろう”ではなく数字で証明することができる。
それが面白い。

ニュースや新聞の世論調査からバラエティ番組の調査まで、
出てきた数字の背景を深く考えるようになった。

遅い時間までパソコンに向かいながら、班の仲間と分析したり教えあったりしたことが思い出。
仲間といろんな話ができる楽しかった。

就活のときに自己PRに書ける。
面接で「頑張ったこと」を聞かれた時などに答えやすい。